ENVI5.6
リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。
http://www.harrisgeospatial.com/SoftwareTechnology/ENVI.aspx

このリリースノートは次の項目に分かれています。

- ENVI5.6 のサポートプラットフォーム
- ENVI5.6 の新機能
- ENVI5.6 のライブラリアップデート
- ENVI5.6 で修正された問題

ENVI5.6 のサポートプラットフォーム

ENVI5.6 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。ENVI5.5 SP 2 と SP 3 では、サポートバージョンに変更があるため、ソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン [b]
Windows	Intel / AMD 64-bit [a]	Windows	10
Macintosh	Intel 64-bit	OS X	10.14, 10.15 [c]
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 3.10.0 glibc 2.17

a: ENVI5.3 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの ENVI を起動する場合は、「ENVI5.6/IDL8.8 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI / IDL

の起動方法」をご確認ください。

b:サポートバージョン中の記載は、ENVI / IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認されています。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core　推奨 4Core 以上

ライセンスサーバーのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバー（Flexnet License Server）を使用します。そのライセンスサーバーのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバーをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2008 R2, 2012 R2 Windows 8, 10
Linux	x86-64	Cent OS 6.x Cent OS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16

また、現行の Flexnet License Server 2017.08 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores

その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

ENVI5.6 の新機能

ENVI5.6 の新機能詳細は以下のページを参照ください。

https://www.harrisgeospatial.com/docs/using_envi_WhatsNew.html

ENVI5.6 のライブラリアップデート

・このリリースでのソフトウェアライブラリの更新とコンパイラのアップグレードにより、以下の機能はサポートされなくなり ENVI から削除されました。

- ENVI: GPS-Link tool
- ENVI: Export and chip views to Geospatial PDF on 32-bit Windows and Macintosh 64-bit platforms
- ENVI LiDAR: 3D Viewer
- ENVI LiDAR: Export to COLLADA
- ENVI LiDAR: Export to Google Earth (KML/KMZ)
- ENVI Classic: All remaining code and file formats associated with tape devices

加えて、JAXA PALSAR のデータについては、ファイル名が「VOL-ALPSR」で始まるファイルのみが ENVI でサポートされるようになりました。

・以下のサードパーティライブラリが新バージョンに更新されました。

- ANTLR, 2.7.5
- Apache Commons Logging, 1.1.3
- Chromium Embedded Framework, 79.1.35
- CLL, 4.0.0
- cURL, 7.66.0
- DXF, 2.003
- Eclipse CVS Client, 1.4.1200.v20191210-0610
- HDF5, 1.10.5
- IDL Python Bridge now supports 3.7 and 3.8
- JPEG was replaced with JPEG-turbo library 2.0.3
- libxml2, 2.9.9
- netcdf, 4.7.1
- OpenSSL, 1.1.1d
- Proj 6.2.0

・以下のサードパーティライブラリが今回のリリースから追加されました。

- AdoptOpenJDK 11.0.6
- AdoptOpenJDK JRE 11.0.6
- ecCodes 2.15.0
- Esri Projection Engine and data 10.7.0
- GCTP2 2
- Mesa Open GL Utility 9.0.1
- MGRS 1.3.4

- NumPy 1.18.1
- Openmp 9.0.1
- TBB 4.4.5
- TinyXML2 8.0.0
- wglext.h 23

・以下のサードパーティライブラリが今回のリリースから除外されました。

- Anaconda 2
- Anaconda 3
- Apache HTTP Client
- CBLAS
- Apache Commons Validator
- F2CMath
- GEOS
- Google GSON
- GRIB API
- libconv
- MODTRAN
- ogr2ogr
- SpatialLite
- Zulu

ENVI5.6 で修正された問題

ID	解　説
ENVI-65880	ENVIView::GetExtent がインタラクティブまたは API によるビューの回転を考慮してなかった。
ENVI-70711	MetOp-A AVHRR レベル 1B 画像が正しくキャリブレーションされていなかった。
ENVI-71593	Sentinel-3 の .nc ファイルを開くとエラーが発生した。
ENVI-71798	WorldView-3 の 16 バンド画像の全てのバンドを開きませんでした。
ENVI-71938	AVHRR / MetOp-A の構成係数は更新の必要があった。

ENVI-72007	無視するデータ値が -1e34 のラスタを TIFF 形式にエクスポートする際この値を保持しなかった。
ENVI-72058	IDL コマンドラインで「e = ENVI（/ CURRENT）」を実行すると、未定義変数エラーが発生した。
ENVI-72059	最初のオブジェクトを参照するような 2 番目の ENVI オブジェクトを破棄すると ENVI がフリーズした。
ENVI-72153	WorldView データのラジオメトリックキャリブレーションに誤りがあった。
CLASSIC-68574	Transect ツールの出力距離が不正確だった。